

Tokyo2020に向けての

国際協働学習（小中高）

ー オリパラ・プロジェクトとCLILー

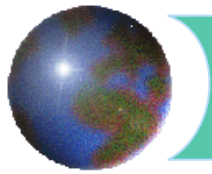
J-CLIL教育学会第14回例会

2019年6月1日（土）

滝沢 麻由美

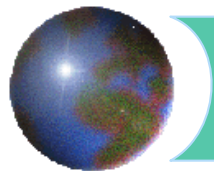
mayumi.takizawa@nifty.com

東洋学園大学



Contents

- ✦ 1. 本実践の背景と目的
- ✦ 2. オリンピック・パラリンピック教育について
- ✦ 3. iEARNの国際協働学習を取り入れたCLIL実践
- ✦ 4. Tokyo2020に向けて、オリンピック・パラリンピックをテーマにした iEARNの新しい国際協働学習プロジェクトについて（小中高対象）

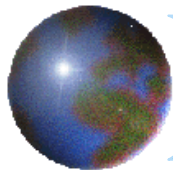


1.本実践の背景と目的

<背景>

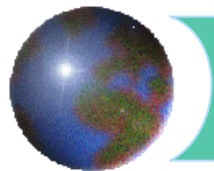
東京都を中心に、全国的に関心が集まりつつあるオリンピック・パラリンピック教育だが、その重点的養成資質1つである「**豊かな国際感覚**」(2016)と、同じく2020年からスタートする**新学習指導要領**の3つ目の柱である「**学びに向かう力・人間性等**」(**どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか**)は、世界の様々な国々との交流を促進し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育もうとする点で大きく重なると捉えられる。

また、東京都以外でも全国各地のホスト・タウンが、受け入れ国との交流を進めている(内閣官房東京2020推進本部、2019)等、今後2020年に向けて、外国についてより直接的に学んだり、国際交流をする機会は、ますます増えていくと考えられる。



<目的>

このような背景のもと、実際に教育現場で児童・生徒間の国際交流活動がおこなわれる際に、
まず教師同士がつながり、共に進めていこうとする
国際協働学習プロジェクトに焦点をあて、CLILとしての
実践を通し、より取り組みやすく、且つ意義深い
活動になるための方策を探り、Tokyo2020に向けた
新しいプロジェクト活動を発展させていくこと。



2. 都教委オリ・パラ教育の概要



オリ・パラ教育の4つのテーマ



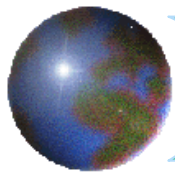
オリンピック・
パラリンピックの
精神

スポーツ
(オリンピック競技、
パラリンピック競技、
障害者スポーツ)

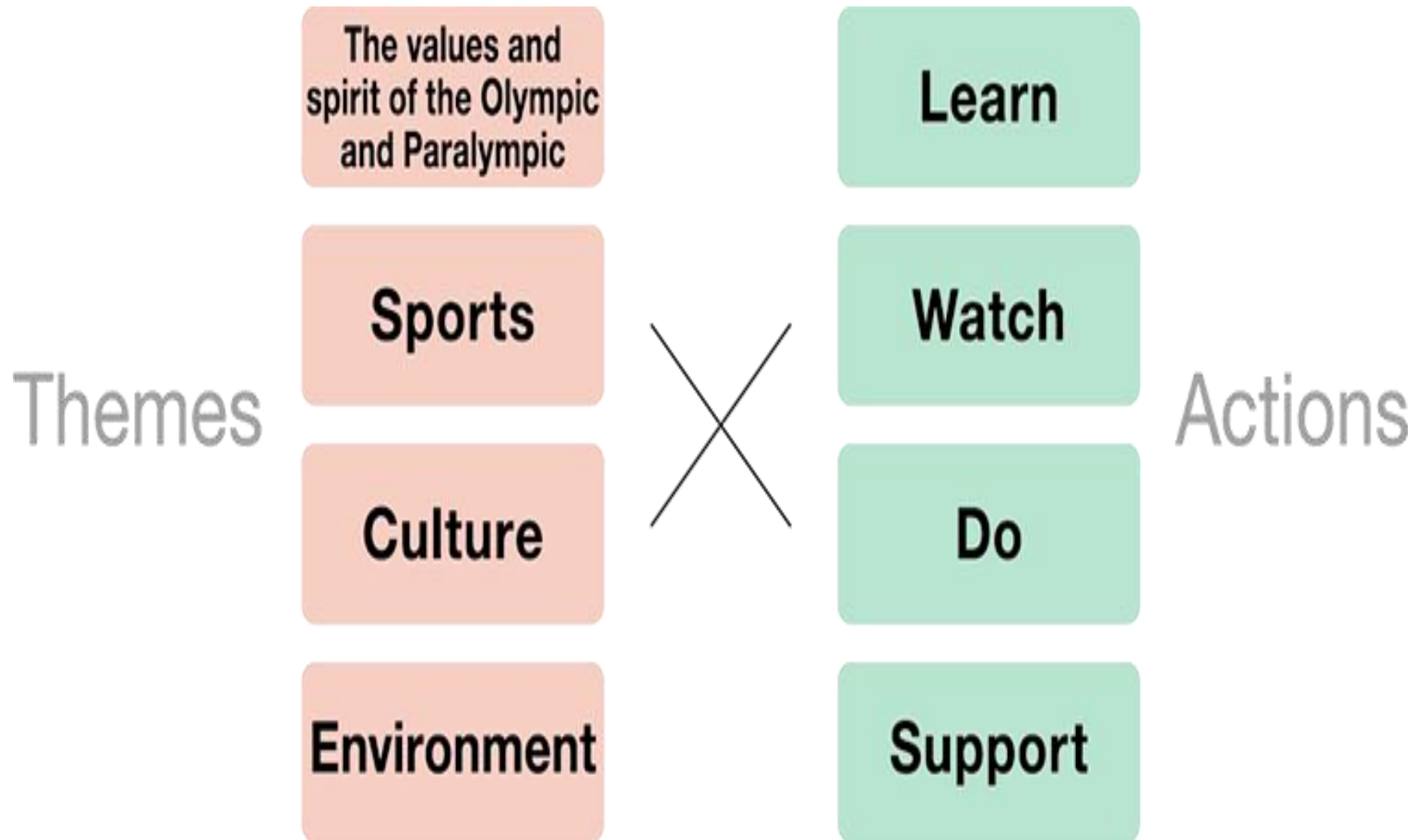
文化
(日本文化、
国際理解、交流)

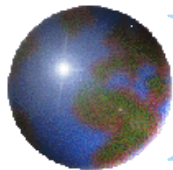
環境

(東京都教育委員会、2016)



Olympic & Paralympic Education in Tokyo

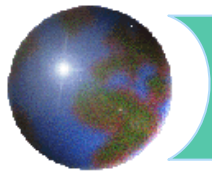




東京都オリンピック・パラリンピック教育 (2016～2020)

都内の公立校対象（小中高）に、
いろいろな教科や活動、行事等に関連させ
(教科横断型)、年間35時間程度を各学校
で計画する。

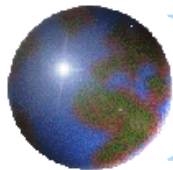
<https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/index>



重点的に育成すべき5つの資質

(都教委、2016)

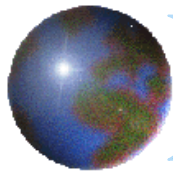
- ✚ 1. ボランティア・マインド
- ✚ 2. 障害者理解
- ✚ 3. スポーツ志向
- ✚ 4. 日本人としての自覚と誇り
- ✚ 5. 豊かな国際感覚



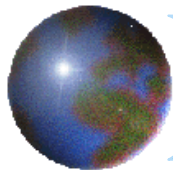
5つの資質を伸ばすための4つのプロジェクト

(都教委、2016)

- ✚ 1. 東京ユース・ボランティア
(ボランティア活動への積極的な参加)
- ✚ 2. スマイル・プロジェクト
(障害者スポーツへの理解)
- ✚ 3. 夢・未来プロジェクト
(オリンピック・パラリンピアン为学校への派遣)
- ✚ 4. 世界ともだちプロジェクト
(Global Friendship Project)

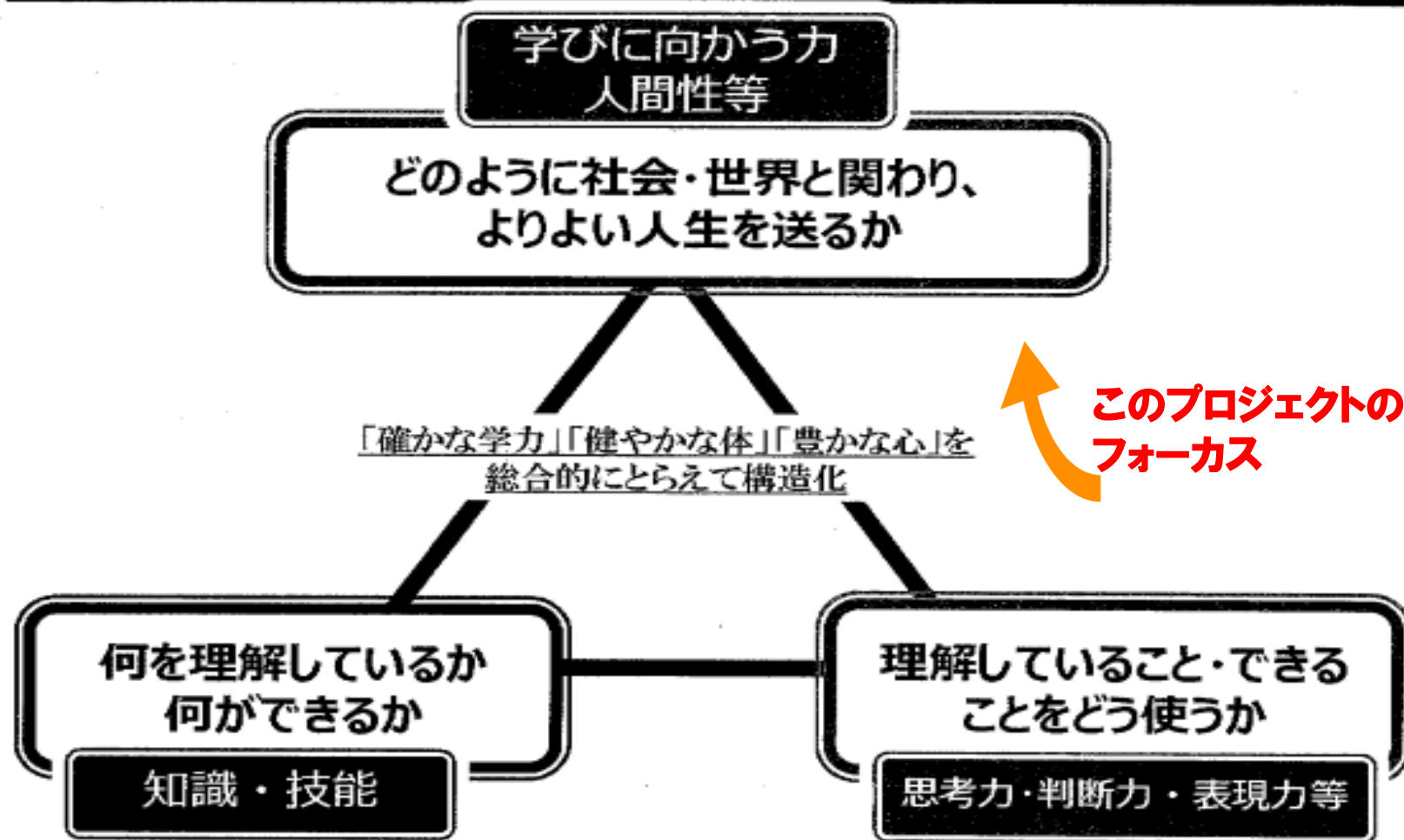


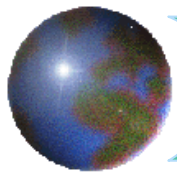
「様々な人種や言語、文化、歴史などを通して、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するために、大会参加国を幅広く学び、可能な限り実際の交流へと深化する活動。この際、これまでの地域、学校が築いてきた姉妹都市や姉妹校等のつながりも生かした教育を展開をする。また、留学生が多く、多様な国籍の人々が住み、大使館が集中している等の*東京の特性を生かした国際交流も実施する」 *「一校一国運動」(長野1998)との違い



新学習指導要領の3つの柱（文科省, 2017）

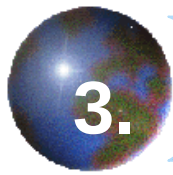
育成を目指す資質・能力の三つの柱（案）





2016～2018年の実践研究 (町田、滝沢)

- ▶Rio2016開催時のオリンピック・パラリンピックCLIL授業(計30時間)
- ▶オリンピック・パラリンピックをテーマにした小学校英語教材開発
のための日本児童教育振興財団の助成研究(町田・滝沢、2017)
 1. CLILによる国際理解教育授業として展開 (3つの柱×4Cs)
 2. 都内外の研究協力校8校 計23クラス・総授業時間数85時間
 - ★3. 自身の研究授業の一部として、「世界ともだちプロジェクト」の一環となるよう、世界的NGO団体 iEARN(アイアーン)の推進する国際協働学習プロジェクトを4つ実施 (2017-2018)。
 4. 2018年度も実践を継続、研究成果を活用した教材本の出版
(町田・滝沢、2019)



3. iEARNの国際協働学習を取り入れたCLIL実践

✿ iEARN(アイアーン): International Education and Resource Network

Global PBL Project (K-12)を推進する

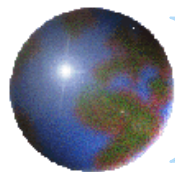
国際的教育ネットワークNGO団体 <https://iearn.org/>

*1 min.video あり

★ JEARN: Japan Education and Resource Network 「NPOグローバルプロジェクト推進機構」

→ iEARNの日本センター（メンバーシップ申込み等）

<http://www.jearn.jp/japan/index.html>

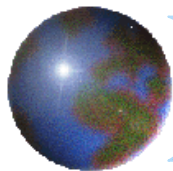


17 Sustainable Development Goals

全てのプロジェクトが、SDGsのいずれかに結び付いている



<https://youtu.be/kmDBSXR619Q>



Collaboration Centreでのつながり

KDDI

HD 88% 18:46



<https://iearn.org/cc/das>

1



My Groups



言語を選択 | ▼



Learn with the world, not just about it.



Teachers Forum >

A forum where teachers can meet, ask questions, and discuss project ideas. Teachers new to iEARN are encouraged to introduce themselves here.



英語

日本語



KDDI

HD 88% 18:46



Youth Forum >

A forum where students can meet each other, share ideas, and discuss ways they can work together on joint projects.

My Groups

iEARN General Discussion Space [View »](#)

1. Teachers Forum [Home](#) [Forum](#) [Leave Group](#)

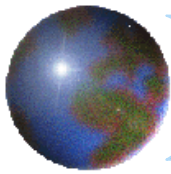
2. Youth Forum [Home](#) [Forum](#) [Leave Group](#)

6. iEARN Facilitators Discussion
Group [Home](#) [Forum](#) [Leave Group](#)

Japanese [Home](#) [Forum](#) [Leave Group](#)

Project for Future Teachers - Knowing Our Students;
Knowing Ourselves [Home](#) [Forum](#) [Leave Group](#)

iEARN Projects Space [View »](#)



KDDI

HD 88% 18:47

[Read more >](#)

KDDI

HD 85% 19:03

iEARN Projects Space

Countries Participating

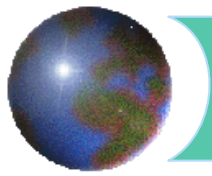
Albania, Algeria, American Samoa, Argentina, Australia, Austria, Azerbaijan, Bahamas, Bahrain, Bangladesh, Belarus, Bosnia and Herzegovina, Botswana, Brazil, Cambodia, Cameroon, Canada, Chad, Chile, China, Colombia, Costa Rica, Croatia, Czech Republic, Dominican Republic, Ecuador, Egypt, Ethiopia, France, Gambia, Georgia, Germany, Ghana, Greece, Guatemala, Guinea, Haiti, Honduras, India, Indonesia, Iran, Iraq, Israel, Italy, Jamaica, Japan, Jordan, Kazakhstan, Kenya, Korea (South), Kuwait, Lebanon, Liberia, Lithuania, Macedonia, Malaysia, Mali, Mauritania, Mexico, Moldova, Mongolia, Montenegro, Morocco, Nepal, Netherlands, New Zealand (Aotearoa), Nigeria, Norway, Oman, Orillas, Pakistan, Palestine, Peru, Philippines, Poland, Puerto Rico, Qatar, Romania, Russia, Saint Lucia, Saudi Arabia, Senegal, Sierra Leone, Singapore, Slovenia, Somalia, South Africa, Spain, Sri Lanka, Sudan, Suriname, Sweden, Syria, Taiwan, Tajikistan, Tanzania, Thailand, Togo, Tunisia, Turkey, Uganda, Ukraine, United Arab Emirates, United Kingdom, United States, Uruguay, Uzbekistan, Venezuela, Vietnam, Yemen, Zambia



Join over 200 primary and secondary level projects designed and facilitated by teachers and students. In addition to meeting curriculum needs, projects must answer the question, "How will this project improve the quality of life on the planet?" This vision and purpose is the glue that holds iEARN together, enabling participants to become global citizens who make a difference by collaborating with peers around the world. Visit the [iEARN Teachers Forum](#) and [Youth Forum](#) to meet, share ideas, make announcements, and find partners. [Click here to view this year's iEARN Project Book online.](#)

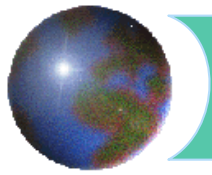
Share





この2年でインタラクションのあった国々

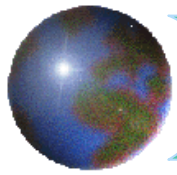
Albania, Algeria, American Samoa, **Argentina**, **Australia**, Austria, **Azerbaijan**, Bahamas, Bahrain, **Bangladesh**, **Belarus**, Bosnia and Herzegovina, Botswana, **Brazil**, **Bulgaria**, Cambodia, Cameroon, **Canada**, Chad, Chile, China, **Colombia**, Costa Rica, Croatia, Czech Republic, Dominican Republic, Ecuador, Egypt, Ethiopia, France, Gambia, **Georgia**, Germany, Ghana, Greece, Guatemala, Guinea, Haiti, Honduras, **India**, Indonesia, Iran, Iraq, Israel, Italy, Jamaica, **Japan**, Jordan, Kazakhstan, **Kenya**, **Korea(South)**, Kuwait, Lebanon, Liberia, Lithuania, **Macedonia**, Malaysia, Mali, Mauritania, Mexico, **Moldova**, **Morocco**, **Nepal**, **Netherlands**, New Zealand(Aotearoa), Nigeria, Norway, Oman, Orillas, **Pakistan**, **Palestine**, **Peru**, Philippines, Poland, **Portugal**, **Puertorico**, **Qatar**, **Romania**, **Russia**, Saint Lucia, Saudi Arabia, Senegal, Sierra Leone, Singapore, **Slovenia**, Somalia, South Africa, **Spain**, Sri Lanka, Sudan, Suriname, Sweden, Syria, **Taiwan**, Tajikistan, **Tanzania**, **Thailand**, Togo, Tunisia, Turkey, **Uganda**, Ukraine, United Arab Emirates, United Kingdom, **the U.S.**



メンバーシップの活用

▶各国のカントリー・コーディネーター等の審査によるメンバーシップ取得後、

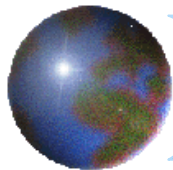
1. 専用のウェブ・アクセス権
2. テレビ会議システム(zoom)
3. 教師だけでなく生徒にもウェブ・アクセス権
4. プロジェクト参加権(ディスカッション、作品製作やメディア相互制作など)



International Conference & Youth Summit (年次国際会議 & ユース・サミット)

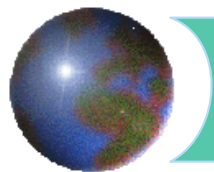


(2018年 7月 米国、バージニアにて)



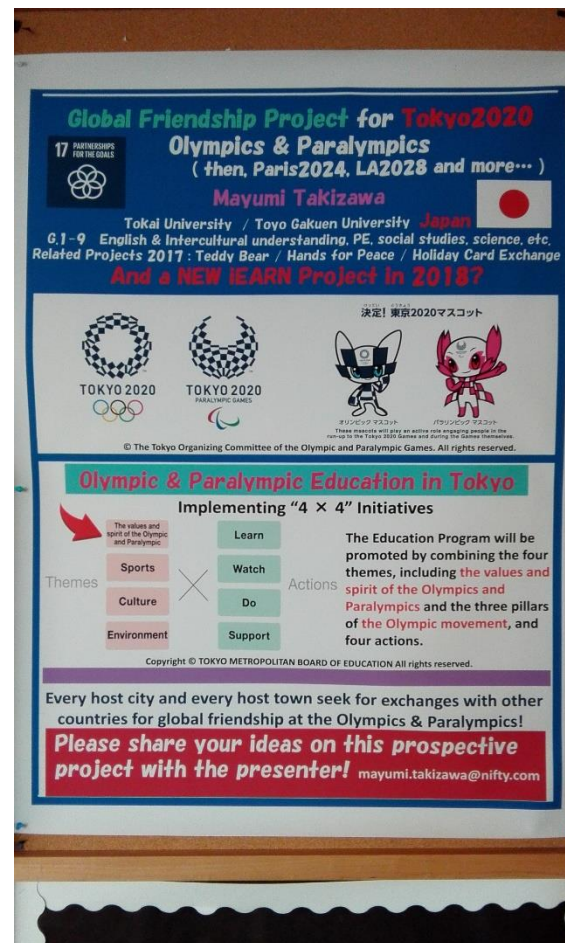
50ヶ国から400名以上の参加

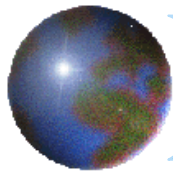




My Presentations

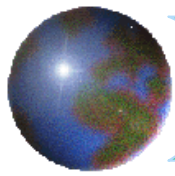
1) Poster Session:
Global Friendship Project
for the Tokyo2020
Olympics & Paralympics
including iEARN projects
at an elementary school
in Tokyo and a proposal
for a new iEARN project





参加した4つのiEARNプロジェクト

- 1. Teddy Bear Project (2017, 2018)**
- 2. Hands for Peace Project (2017)**
- 3. Holiday Card Exchange Project
(20017, 2018)**
- 4. My School, Your School Project
(2018)**

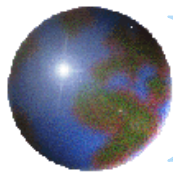


Hands for Peace Project (滝沢、2019)

2) Round Table Session:

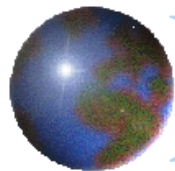
From Rio2016 to Tokyo2020





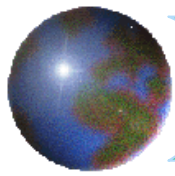
ブラジル、アゼルバイジャンのメンバーと





参加各国からのオーディエンス



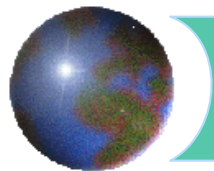


European Youth Olympic Games

ホストシティ、バクーのオリ・パラ教育を視察（7月）



<https://eyofbaku2019.com/>



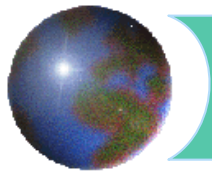
2ヶ国語で‘Teddy Bear Project’

～オリンピック・パラリンピック教育の一環として～

(滝沢、2019)

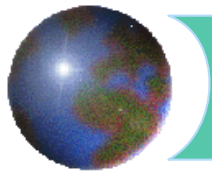
<目的>

- 1) 3つの柱と、**CLIL**(内容言語統合型学習)の**4つのC**(Content, Communication, Cognition, Community/Culture)の要素を組み合わせた**目標観点**を入れ、特に今回の特徴である、**2ヶ国語**でのやり取りを含んだ**多様な授業案**を作成することより、各活動における児童の反応や気づきにどのような傾向や特徴があるかをみる。



2) この活動を通して、特に日本の児童が、同年代の**外国の児童への相手意識**をどのように高められるかをみる。





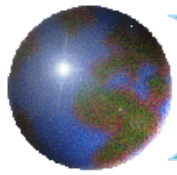
<対象>

大田区立M小学校4～6年生混合グループ20名と、
E校 (オーストラリア) 5, 6年生の日本語選択クラス16名

<交流期間> 2017年5月～2018年2月

- 1) ほぼ毎月共通のトピックについてのやり取り
(iEARN、Facebook、郵送等)
- 2) 振り返り: 日本人①授業者 ②児童
(CLILの4Csの観点項目と自由記述)

(山野、2013 ; 町田・滝沢、2018)



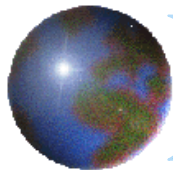
<単元目標> (このプロジェクト全体を通して)

1. [知識・技能](Content・Communication)

- ・目標言語や、相手校の児童の英語と日本語を聞いて、だいたい理解できる。
- ・各トピックに関する目標表現でやり取りをしたり、紹介や発表ができる。
- ・目標表現や自分で選んだ語句と一緒に読んだり、ワークシートに書き写すことができる。

2. [思考力・判断力・表現力等](Cognition)

- ・各トピックの活動で、自分で理由を考えて語句を選んだり、分類したりする。
- ・自分の伝えたいことを作品を通して表現する。



3. [学びに向かう力・人間性等]

(Community/Culture)

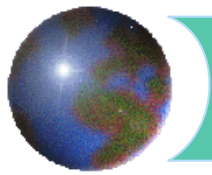
- ・同年代の外国の児童の様子を進んで知ろうとし、各トピックに興味や関心を持って、一緒に取り組もうとする。
- ・他者に配慮し、文化的な類似性や相違性を理解しようとしながら、友達意識を持とうとする。

＊ 新CSの3観点 × 4Csのフレームワーク作りは、
笹島・山野(2019)を参考

4. 活動のトピックと様子について

「スクールサポートまごめ」

<https://www.ota-school.ed.jp/magome-es/>



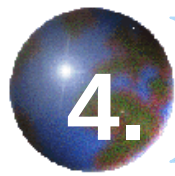
- ・各CLIL授業の内容(目標:3観点×4Cs)
- ・質問紙調査の結果
- ・考察・まとめ

★上記、詳細については、
「オリンピック・パラリンピックをテーマにした
国際理解教育―CLILによる英語授業実践」

(坂本・滝沢、2019)

東洋学園大学紀要第27号

→CiNiiでオープン・アクセス(閲覧可)



4. iEARNの新オリ・パラプロジェクト

The Olympics & Paralympics in Action (TOPA) Project

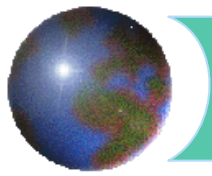
(Facilitators: Mayumi Takizawa & Sayuri Hasegawa)

<https://iearn.org/cc/space-2/group-676>

* 日本センター「ジェイアーン」で
入会后、随時参加可

Tokyo2020の参加国の
小中高生(K-12)対象+Youth
(サポーターとしての大学生の参加可)





References

- 公益財団法人 日本オリンピック委員会(2017)、「オリンピック価値教育の基礎」
<https://www.joc.or.jp/olympism/ovep/pdf/ovep2017.pdf>
- 坂本ひとみ・滝沢麻由美 (2019).「オリンピック・パラリンピックをテーマにした国際理解教育～CLILによる英語授業実践」東洋学園大学紀要(27).
- 笹島茂・山野有紀(編著)(2019).『学びをつなぐ小学校外国語教育のCLIL実践「知りたい」「伝え合いたい」「考えたい」を育てる』三修社.
- 滝沢麻由美 (2018).「オリンピック・パラリンピックをテーマにしたCLIL授業～国際理解教育のための小学校英語教材開発研究報告」. J-CLIL News letter Vol.(2)
- 東京都教育委員会(2016)、「オリンピック・パラリンピック教育」
<https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/index>
- 特定非営利活動法人グローバルプロジェクト推進機構ジェイアーン(2018)、「2017国際協働学習iEARNレポート」http://www.jeearn.jp/japan/iearn-report/ISSN24340049_2017.pdf
- 町田淳子・滝沢麻由美(2018).「2017年度 一般財団法人 日本児童教育振興財団助成研究 国際理解教育としてのオリンピック・パラリンピックをテーマにした小学校英語教育教材の開発 研究報告書」一般財団法人 日本児童教育振興財団.
- 町田淳子・滝沢麻由美(2019).『英語で学ぼう オリンピック・パラリンピックーCLILによる国際理解教育として』子どもの未来社.
- 山野有紀 (2013).「小学校外国語活動におけるCLILの実践とその展開 ～授業実践から見た可能性」『EIKEN BULLETIN』 Vol.25, pp.94-126.
- International Education and Resource Network (iEARN) (2015). <https://iearn.org/>